



平尾中学校で「水俣病から宝物を伝えるプログラム」 心のつらさが伝わってきた

2月5日、平尾中学校（小島士郎校長・36人）で、県の水俣病学習支援事業の一環で行われている「水俣病から宝物を伝えるプログラム」の出前授業が開催されました。この日は、水俣病患者の長井勇さん（出水市）と松永幸一郎さん（水俣市）、「きぼう・未来・水俣」の加藤タケ子代表の3人が講師を務めました。山下明里さん（2年）は「講話を聞いて患者や家族の心のつらさが伝わってきた。普段の生活のありがたさが分かった」と振り返りました。



平尾保育園で豆まき 鬼払いできました

2月3日、平尾保育園（清原卓英園長）で節分の豆まきがありました。節分の豆まきは、室町時代以降の宮中行事が起源と言われ、魔（鬼）を滅する「魔滅（まめ）」の語呂合わせで豆まきを行うようになったとも言われています。当日は、お面をかぶった園児たちが「鬼は外」の発声に合わせて豆代わりの柔らかいボールを鬼に投げ、鬼を払っていました。永田梨咲さん（6）は「みんなでボールを投げて楽しかった。ボス鬼が来たけど払えてよかった」と笑顔を見せました。



子育てセミナーを開催 全ての人が生きやすい世の中に

2月7日、町文化ホールで子育てセミナーを開催しました。町内の小・中学校の家庭教育学級生と今年4月に入学する児童の保護者約70人が参加しました。この日、講師を務めたNPO法人くすの木自然館の石神愛梨さんは、先天性両肘関節異常欠損で日常生活をすべて足で行っています。石神さんは「障がいを持ったかたはかわいそうな人ではない。みんな同じ。全ての人が生きやすい世の中になるように講演を続ける」と話し、前向きに生きる姿を紹介しました。



令和7年度原子力防災訓練 非常時の連携を確認

2月7日、地震による重大事故を想定した令和7年度鹿兒島県原子力防災訓練がありました。町では、住民や消防団員などが参加し、屋内退避訓練や原子力防災アプリを使用した訓練を実施しました。この日は、火ノ浦地区が孤立したことを想定し、海上自衛隊船舶で住民らを小島港から宮之浦港まで輸送。非常時の連携や安全管理が確認されました。町消防団山門野分団長の馬場豊さんは「より実効性の高い訓練となるよう消防団としても引き続き取り組んでいきたい」と話しました。